

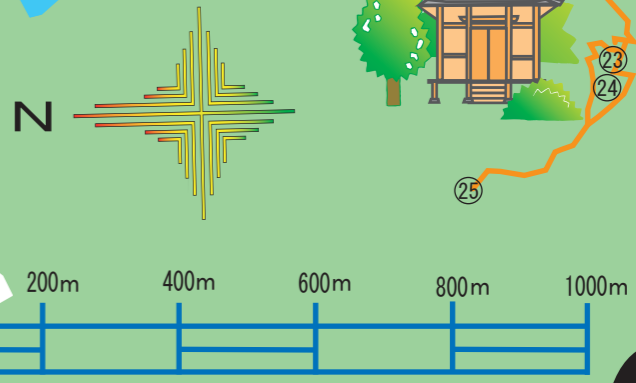
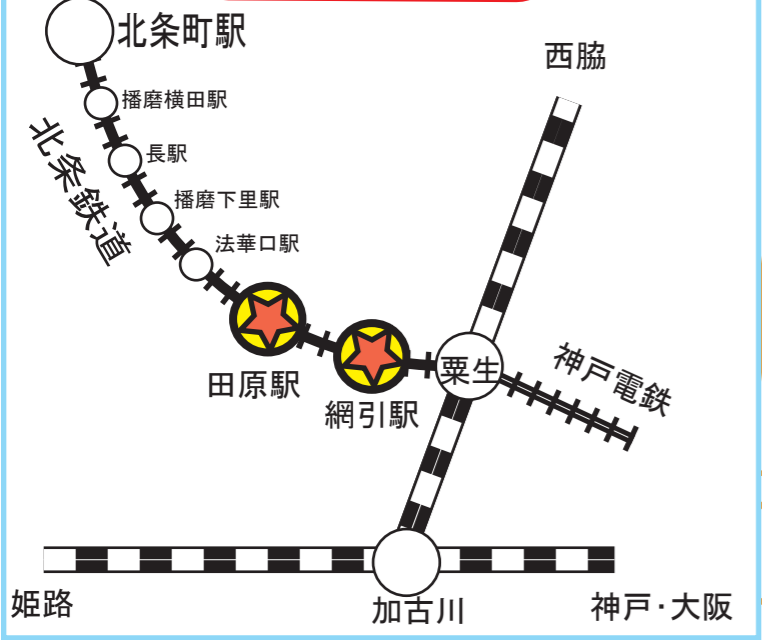
# 北条鉄道沿線散策マップ

こんどは 網引駅・田原駅周辺

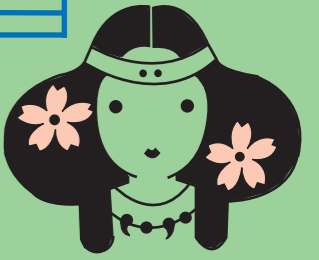
名所・旧跡  
66連発



## アクセスマップ



加西市観光まちづくり協会  
兵庫県加西市北条町横尾1000  
Tel 0790-42-8823



- |  |   |  |   |   |  |   |
|--|---|--|---|---|--|---|
| 【1】 <p><b>網引駅</b></p> 北条鉄道の市内7つの駅の最後の駅です。大正4年3月に北条鉄道の前身播州鉄道の開通と同時に設置されました。駅敷地内には、歴史を感じさせるレトロな井戸ポンプが残っています。駅東側の空地には、以前引込み線路があり、お米を中心に農作物が大量に出荷されてきました。今も古い倉庫が残っています。                    | 【11】 <p><b>針田遺跡</b></p> 網引町南東すぐの所にあります。弥生時代後期の住居遺跡で、昭和52年圃場整備に伴い発掘調査が行われ、多量の弥生式土器と共に、一辺約6mの隅丸方形の竪穴式住居跡が確認されました。調査後、工事計画を変更し遺跡は埋め戻され、現在は畑の下に地下保存されています。  | 【21】 <p><b>加西市酪農乳牛センター</b></p> 周遍寺へ登る参道の両側に牧草地が広がっています。26haという広大な牧草地に約200頭の乳牛の子牛が飼育されています。健康で元気な乳牛を育てるため、酪農家から生後間もない子牛を預かり、搾乳が出来るようになるまでの間、ここの大自然の中で育てられ、市内の酪農家の元へ帰っていきます。                 | 【31】 <p><b>糠塚山</b></p> 糠塚古墳の背後にある標高149mの山です。播磨風土記によると、大汝命が下鴨の村で米をつかせたところ、糠が散ってこの岡に飛んできたため硬岡と呼ばれるようになったという記述があり、この硬岡が糠塚山と推定しています。今は登ることは出来ませんが、古代から栄えたここ楢原の里を見渡すことができる位置にあり、風土記の浪漫薫る風格のある山です。        | 【41】 <p><b>栄町妙見堂</b></p> 大きな2本の杉と化け灯笼を前にしてお堂があります。堂の屋根瓦には妙見菩薩を表す「妙」の字が描かれています。妙見菩薩は北極星を仏格化したもので、宇宙の中心・根源とされ、諸願成就の仏として信仰されています。30年前程までは妙見講が営まれていましたが現在はなく、近くの人により堂が維持されています。               | 【51】 <p><b>清慶寺南帝塚</b></p> 白壁の中に宝篋印塔が立っています。嘉吉の乱で滅んだ赤松家の家臣が、お家の再興を図るべく、長禄元年(1457)南朝方に忍び込み、皇子の首と神璽を奪いました。この功により赤松家は再興しまたが、その家臣は、年若い皇子の命を奪ったことに心を痛め、自領に首を葬り供養したのが南帝塚です。塔には長祿の銘がありますが、隅飾突起の様式からみて、江戸期以降の製作と思われる。 | 【61】 <p><b>石橋供養塔</b></p> 田原橋西側の地蔵堂の横にあります。重厚な石碑に「石橋供養塔、天保7年‥」の銘があります。以前この付近に架かっていた石橋を供養するために建てられたようです。昔は、橋の工事で犠牲者がでたり、洪水で橋が流されたりすると、橋に潜む悪霊の仕業と信じられ、供養碑を建て安全を祈願しました。現在感覚的に不思議な不思議な供養塔です。     |
| 【2】 <p><b>列車転覆事故殉難の碑</b></p> 1945年3月31日鶴野飛行場を飛び立った戦闘機紫電改がエンジン不調で不時着。その際、現北条鉄道のレールを引っかけたため、後発の列車が脱線、転覆。死者12名、負傷者104名の重大事となりました。平成15年8月犠牲者の鎮魂と事故を後世に伝えるため、網引駅内に当看板を建立、公共交通の安全を見守っています。   | 【12】 <p><b>播磨中央自転車道路</b></p> 兵庫県が「自然と文化、歴史のふれあい回廊」として整備をすすめているサイクリングロードです。将来的には加古川右岸自転車道路とも接続し、加古川の河口から播磨中央公園まで結ばれる予定ですが、現在は南網引町から繁昌町までの約7kmが完成しています。幅約4mのオレンジ色のロードで、加西市南部の田園風景を満喫できます。         | 【22】 <p><b>周遍寺丁石</b></p> 周遍寺参道の中程の路肩に、長さ約1mの石柱が転がっています。地蔵菩薩の種子と「四丁」の文字を刻んでいます。いわゆる「丁石」と呼ばれている距離を示す石造物で、山深い寺社の参道などによく見かけます。1丁は約109mで、ここから周遍寺まで約436mですということを表しています。                          | 【32】 <p><b>網引町道標</b></p> 八幡神社南の旧道を東に抜けた辻に3基の道標があります。手前の1基には、右きしのみき、左あお、じょうど寺 とあり、上段に仏を陽刻し、造立した17人の名と文化14年(1817)の銘を刻んでいます。他の2基は、屋根の下で、道標と判らないくらい幾重にもよれた掛かりが巻かれています。小さな道標も人々の信仰により守られています。            | 【42】 <p><b>愛宕地蔵・岩ノ端地蔵</b></p> 栄町公会堂東の坂道途中の小さな堂の中に2基あります。愛宕地蔵は、火伏せの神である愛宕さんと地蔵信仰が結びついた仏と思われれます。岩ノ端地蔵は、村のはずれの岩の端にある地蔵という意味で、集落の境にあり、外からの魔物の侵入を防ぎ村を守る地蔵だと思われます。共に普通は集落を見渡せるすこし高台に立っています。     | 【52】 <p><b>清慶寺板碑</b></p> 高さ180cm、幅79cmにして、厚さわずか15cmという極めて薄い家方石棺の内側に。阿弥陀三尊種子を薬研彫りしています。上段の阿弥陀種子は珍しい書体で刻まれ、下段には、右に勢至、左に観音菩薩と普通とは逆の位置です。左下方向に親骨という銘があり(1314)の銘があり、製作年代が明らかな貴重な板碑です。県重文指定。                       | 【62】 <p><b>粟森福荷神社</b></p> 田原町の南西公会堂の隣にあります。亀甲積み の石垣上に幅3間、奥行2間の拝殿があり、その奥に五垣に囲まれた本殿があります。稲倉魂命を祭っています。本殿左右には数基の小さな祠があり、右奥の祠は、瓦材で作ったような小さなもので、以前は吊り灯笼として使われていたものかもしれませんが、かわいらしい小祠です。            |
| 【3】 <p><b>網引駅前大イチヨウ</b></p> 駅前に、樹高約21m、幹回3.4mの大イチヨウがあります。秋には黄金色に色づき、たくさんの銀杏をつけます。町のシンボルとして親しまれ、平成元年9月には加西市のふるさとの木にも選定されています。地元のご老人によると「私の子供の頃は親指ぐらいの太さだった」とのことで、樹齢は70年くらいでしょうか。        | 【13】 <p><b>網引橋</b></p> 網引駅の南、播磨中央自転車道中にあり、万願寺川に架かる自転車、歩行者専用の大橋です。全長は約100m、幅約5mで、橋途中には展望用のふくらみが2ヶ所あります。サイクリングやウォーキングで利用する人が、万願寺川のせせらぎと水面に沿って吹く涼風に一息つく休息スポットになっています。                              | 【23】 <p><b>周遍寺</b></p> 当寺は、白雉2年(651)に法道仙人が草創したという古刹で、中世には七堂伽藍を備えた当地有数の名刹として栄えました。しかし、天正6年(1578)羽柴秀吉軍の兵火にかけかり伽藍を焼失。天和2年(1682)地元の里長高田六郎右衛門正恒が中心となり再興しました。現在は、本堂や右隣の開山堂、庫裏西側の大師堂、鐘堂などが残っています。 | 【33】 <p><b>密蔵院</b></p> 周遍寺の一院として、元は周遍寺石段横の平地地に建てていましたが、村中へ移築されました。山門をくぐる左側に近代式的な宝形造りの本堂があり、南側に薬師堂、小さな鐘堂、弘法大師像などが並んでいます。本堂前に「念ずれば花ひらくらく刻んだ石碑があり、新しい物ですが、どこか魅きつけるものがあります。                             | 【43】 <p><b>桑原田町パイロットファーム</b></p> 桑原田町の東側山部に広大なぶどう畑が広がっています。1960～61年兵庫県農農業近代化パイロットファーム補助事業として、約16haの山林を開墾し、ブドウが植栽されました。7月～8月近くの集荷場や直売所にはゴールデンベリーAを中心に2種類とすみずしいブドウが販売され、加西市の特産品として人気を得ています。 | 【53】 <p><b>清慶寺宝篋印塔</b></p> 反花をもつ2段の基壇上に、宝珠を欠くもののほぼ完全な形の宝篋印塔が残っています。阿弥陀三尊種子を薬研彫りしています。四仏を肉厚に浮き彫りしていることで、類例が少なく、重厚な印象を与えています。基礎部には、嘉暦2年11月7日(1327)の銘があり、鎌倉末期の石造物を代表する逸品です。県重文指定。                               | 【63】 <p><b>田原町薬師堂</b></p> 平成14年3月に建て替えられた真新しいお堂です。由緒は不明ですが、境内のクスノキやカイズカイブキ等の大木が歴史を感じさせます。本尊は薬師如来で、現世の人々のもっとも切実な苦しみである病苦を癒してくれる仏として古くから信仰されています。屋根には、見ていると目が回りそうな鬼瓦が付いています。                  |
| 【4】 <p><b>お菓っさん</b></p> 網引駅の東、北条鉄道の路線沿いに小さな祠があります。ブロックの小室に白い自然石や五輪塔の残片が積られています。地元では「お菓っさん」と呼ばれています。以前ここには薬師如来を祀る薬師堂があり、お堂は密蔵院に移築されましたが、その跡地の僅かな残留物にも、町民の変わらぬ信仰を集めています。                 | 【14】 <p><b>県道に口を開ける古墳(状堂山2号墳)</b></p> 県道に接し、ぱっくりと口を開けており、横穴式石室を観察できます。入口両側に玄間石を立て、羨道部長3m、幅1.5m、玄室長5m、幅1.6mで完全な形で残っています。墳丘は約16m、高さ4mで比較的良く残っていますが、戦後間もない頃までは、良質な家壁土として盛んに採土されていたそうです。            | 【24】 <p><b>周遍寺石造多層塔</b></p> 周遍寺の四国88ヶ所礼所めぐり道中に、高田六郎右衛門正恒が寄進した石造多層塔があります。高さ約3メートルの九重塔で、転輪部と最上層部は落下しています。土壇部には、なぜか経3～4cmの川石が多量に露出しています。付近には、五輪塔や石仏が集められ、周遍寺中興の祖高田氏の威徳を偲んでいるかのようです。           | 【34】 <p><b>密蔵院阿弥陀石棺仏</b></p> 方形石棺蓋石の内側に、大きく目の蓮華座上に定印を結ぶ阿弥陀座像を陽刻しています。身体に比べ頭部がやや大きめで、童子的な感じもします。円形光背や肉髻、顔の表情や三道、印相や衣などははっきりしていません。密蔵院山門前にも、今も無縁仏を守るように座っています。鎌倉後期から南北朝期の造立と言われています。                  | 【44】 <p><b>桑原田町地蔵堂</b></p> 福性寺西側の集落の中にあります。石造りの家形祠で、屋根正面の唐破風内に地蔵菩薩の種子を刻み、石扉を設けています。その中に木製の厨子があり地蔵尊が納められているようです。以前は2間四方の瓦葺のお堂でしたが、大正14年8月に倒壊したため、翌15年1月に現在の石祠に再建されました。                     | 【54】 <p><b>清慶寺石棺仏</b></p> 清慶寺境内南帝塚の東側に東面して立っています。組合式石棺の底石に蓮華座上に光背を背負い、定印を結ぶ阿弥陀座像を半肉彫りしています。全体の形に摩滅がすすみ不明瞭ですが、製作年代は鎌倉末期でしょうか。   | 【64】 <p><b>田原町東地区地蔵石仏</b></p> 田原町東地区公会堂裏の、五方より路地が集まる所の中央にあり、立派な基段上に重厚な石室を建て、その中にやや背高の地蔵石仏を安置しています。屋根の唐破風には地蔵菩薩の種子を刻んでいます。昭和25年4月に再建されています。地蔵石仏は鎌倉時代より造られはじめ、江戸期以降は、現世利益の仏としてたくさん造られるようになりまし |
| 【5】 <p><b>八幡神社</b></p> 当神社は永正2年(1505)、同村の大工が姫路市松原に出征中、松原八幡宮の神が夢枕に立ったため勧請したと伝えられています。隨身門を抜ける土能舞台があり、拝殿、本殿とつづき、傍らには大蔵宮や愛宕社などが並んでいます。3年に一度奉納される獅子舞は、明治20年小野市から伝わり、市民俗文化財の指定を受けています。       | 【15】 <p><b>ハメ塚石棺仏</b></p> サイクリングロード西の法面上にあります。石棺の底石を舟形に彫りこぼめ、その中に錫杖を持った地蔵立像を浮き彫りにしています。右隣には「ハメ塚」と刻んだ小さな石碑があるためハメ塚石棺仏と呼ばれています。見学の際には、くれぐれもハメ(マムシ)にはご注意ください。                                      | 【25】 <p><b>周遍寺経ノ尾</b></p> 当寺は、法道仙人が北嶺に石に写した妙経を納め堂宇を建立したことにはまると言われており、その地は今も経ノ尾と呼ばれています。88ヶ所めぐりの40番礼所の隣から山道を登った所に位置し、三角点のある平地地あたりと言われています。今は何も残っていませんが、尾根からは七嶺七溪の景勝地と謳われた美しい景色を望めます。        | 【35】 <p><b>濱田よし子刀自碑</b></p> 女史は、明治5年網引町で出生。故あって13才の時、神戸の祖父宅に身を寄せ、14歳で他家に雇傭に入りました。21歳で結婚するも夫が早逝したため、詳細な茶商を継ぎ、大変な努力により財を成しました。女史は、郷里に感謝し網引町に公会堂を寄付。初めての公会堂に町民は歓喜し、昭和7年に当碑を建立しました。女史の顕彰碑は周遍寺庫裏前にもあります。 | 【45】 <p><b>福性寺</b></p> 当寺は、元は現在の小野市にありました。金鐘城主中村六郎左衛門尉景長が、天文年間(1532)に当町に移したのが始まりと言われています。本堂は1910年に町内にあった薬師堂を移築したものです。ツバキがおおう石、手入れされた庭、素朴な石仏たちなど小さなお寺の良さがあります。                             | 【55】 <p><b>神功神社</b></p> 神功皇后を祭る神社で、宝永年間(1704～)に隣村との間に2つの訴訟が起き、当社に祈願したところ、たちまち2つとも勝訴したため、現在地に新社殿を造営したと伝えられています。隨身門は三間一戸で前一軒に狛犬、後一間に隨身を安置しており立派です。本殿右の小社は、神功皇后の子応神天皇を祭る八幡宮です。                                  | 【65】 <p><b>田原町庚申堂</b></p> 田原町東地区集落の東端の広場に小さな木製の社があります。庚申堂です。屋根は堂葺の流造りで、千木や堅魚木、二軒、龍や獅子などの彫刻、板戸や高欄の飾り金具なども精巧に作られており、小さな社ですが風格があります。年に一度地元の人により講が営まれています。                                      |
| 【6】 <p><b>八幡神社石棺</b></p> 八幡神社の隨身門をくぐった所の左右に狛犬のように立ててあります。共に組合せ石棺の底石で、側辺部に沿い幅約15cm、深さ1～2cmの段を穿っています。加西市では、側石をのせる部分には、原橋西⑨の石棺のように凹凸に溝を掘る例も多いのですが、当石棺は段状とし、果下の臨海部に多い様式を示しています。            | 【16】 <p><b>南網引大師堂</b></p> 南網引信号のすぐ東に東面して建てています。小さなコンクリート造りのお堂の中に、石造仏と木製の厨子の扉子に入った仏が祀られています。大師とは勿論弘法大師空海のこと、真言宗の開祖として密教教義を極める一方、全国を巡錫し、民衆の救済や指導を積極的に行い、今もお大師信仰として広く信仰されています。                     | 【26】 <p><b>住吉神社前石棺仏</b></p> 住吉神社前の山裾に南面しています。やや薄い石棺の蓋に仏を刻んでいます。全体的に破損がひどくはつきりしませんが、左手に宝珠、右手に短い錫杖を持ち、右足を垂下させた地蔵半跏像のようです。一般的な二垂下させる足は左足が多く珍しい像容です。右足は五指まではつきり刻まれており、造立時は精巧な仏であったことがうかがわれます。  | 【36】 <p><b>網引町タイムカプセル</b></p> 網引町営農センターの濱田よし子刀自碑の隣に「和」と刻んだ碑があります。加西市の「ふるさと振興事業」の補助を受け、平成13年に建てられ、碑の下にタイムカプセルが埋められました。カプセルの中には全戸から集められた、自分の将来の夢や家族への思い等を綴ったメッセージが納められ、平成18年の開封を待っています。               | 【46】 <p><b>福性寺石幢</b></p> 石幢は、六角の幢身に仏を刻んだもので、福性寺裏側の墓地の入口にあります。宝珠と笠部の3辺を欠きますが、六地蔵を陽刻した 龕部や六角の中台、円柱の竿、反花を刻んだ地蔵半跏像など姿良く残っています。貞享4年(1687)造立の銘があり、石幢の少ない加西市において貴重な石造品です。                        | 【56】 <p><b>神功神社絵馬</b></p> 神功神社の大きな拝殿の中央に真新しい絵馬が掛っています。大正10年に奉納されたものですが、平成14年地元のアマチュア画家の手により修復されました。神功皇后が朝鮮半島に遠征する際、生後間もない我が子、後の応神天皇との別れの場面を描いており、素晴らしい絵馬が蘇りました。他にも忠臣蔵12段絵など興味深い絵馬も奉納されています。                  | 【66】 <p><b>若一王子神社</b></p> 田原町の集落の南にあります。寛政12年(1800)造立の石段を登ると本殿があり、大日靈命が祭られています。本殿大棟左右の鬼瓦の間に小さな鬼面が付いており、かわいくユーニクです。また、本殿前の狛犬の阿形像は玉をくわえており、その玉が口の中で動くように造られており、石工の心意気を感じます。                   |
| 【7】 <p><b>網引能舞台</b></p> 八幡神社境内にあります。棟札により貞享元年(1684)に建てられたことが判っており、屋根部分を除く当時のものです。舞台は切妻造りで簡素ですが、梁や柱は重厚感があり、橋掛りも残っており貴重です。娯楽の少なかった江戸中期、当舞台の周りを埋めつくした人々の歓喜の音が聞こえてきそうな建造物です。市民俗文化財指定。      | 【17】 <p><b>卵の自動販売機</b></p> 網引の町内に2ヶ所設置してあります。コインを投入すると、赤いネットに10程度入った卵を購入することもできます。舞台は切妻造りで簡素ですが、梁や柱は重厚感があり、橋掛りも残っており貴重です。娯楽の少なかった江戸中期、当舞台の周りを埋めつくした人々の歓喜の音が聞こえてきそうな建造物です。市民俗文化財指定。              | 【27】 <p><b>住吉神社</b></p> 南網引の集落南の小高い丘の中腹にあります。本殿、拝殿とも銅葺で、拝殿には石段が付き、本殿とは幣殿というよりは通路で繋がっています。住吉神社は、祭神は簡男三神で、瀬戸内の沿岸部や兵庫県では加古川流域にも多く祭られています。県下では170余社あるといわれ、全国でも2番目の多さです。                        | 【37】 <p><b>栄町大師石祠</b></p> 県道沿いの火見櫓の下にあります。石室の中に木造の弘法大師と地蔵石仏が安置されているようです。永正年間(1504～)に繁昌町の平屋原神社から勧請したと伝えられています。本殿と拝殿は文政10年(1827)に建立され、屋根の大棟の瓦には、波間に彩色された2匹の龍と女性が描かれており珍しいものです。                        | 【47】 <p><b>天満宮</b></p> 桑原田町の北側の山中にあります。菅原道真公を祭り、学問の神様として信仰を集めているようです。永正年間(1504～)に繁昌町の平屋原神社から勧請したと伝えられています。本殿と拝殿は文政10年(1827)に建立され、屋根の大棟の瓦には、波間に彩色された2匹の龍と女性が描かれており珍しいものです。                 | 【57】 <p><b>泉大明神</b></p> 神功神社西側の田畑の小さな社があり、その中に木製の祠があります。その前には赤い鳥居が1基あり、額章に正一位泉大明神とあります。自生するツバキが小社を吞み込むように茂っています。由緒などは不明ですが、泉大明神は、すぐ南の高森稲荷神社にも祀られています。  |   |
| 【8】 <p><b>河童封じのお地蔵さん</b></p> 原橋西の空き地に万願寺川を臨むように立っています。高さ約2mで、江戸期(嘉永2年、1849)に造立された石仏としては大型です。昔万願寺川のこのあたりには深い淵があり、水遊びをしている子供たちが度々溺死したそうです。村人は河童が子供を川に引き込んだと恐れ、河童から子供を守るためこの地蔵を立てたそうです。   | 【18】 <p><b>不動ノ尾石棺仏</b></p> 旧県道からすこし西に入った牧草地の中に東面して立っています。家形石棺の蓋石の内側に地蔵立蔵を肉厚に陽刻しています。左手は胸元に宝珠を持ち、右手は何も持たず手の甲を上にして垂らしています。手の甲をみせる印相は地蔵菩薩では極めて珍しいものです。造立は鎌倉時代中期と思われる、重厚感のある石棺仏です。                  | 【28】 <p><b>ひえ〜 の火見櫓</b></p> 古風な南網引町公会堂前に建っている火見櫓で、約10mの高さがあります。当市の火見櫓は東京タワーに屋根を付けたような形が多いのですが、ここの櫓は特異な形で、この上に乗るのにはかなり勇気が要するような感じがします。  | 【38】 <p><b>両皇太神宮</b></p> 伊勢神宮を祭る神社で、伊勢神宮は、内宮の皇太神宮と外宮の豊受太神宮の二つを総称しているため、両皇太神宮とも呼ばれています。享保年間(1716～)に伊勢より勧請したと言われていますが詳細は不詳です。本殿は近年建て替えられ新しくなっており、本殿の中に両宮を祭る2つの屋根のある社が納められています。                        | 【48】 <p><b>九頭龍神社</b></p> 天満宮の左側奥の石造祠に祀られています。祭神は手力雄命で、天照大神の岩戸隠れの際、大神の手を取り岩戸より連れ出した神です。水神として雨乞いや水害などに豊饒があると言われています。加西市には類例が少なく、祀られているのはここだけかもしれません。  | 【58】 <p><b>千歳山城跡</b></p> 別名田原城とも呼ばれ、相馬小七郎民部少輔秀政が築城した中世の城跡です。現在は高森稲荷神社が建っています。曲輪跡と思われる平坦地や犬走りなどが確認できますが、明確な遺構は不明です。周辺には、城ノ辻、局、かまえ、蔵ノ前など城と関係があると思われる小字名が多く残っています。  |   |
| 【9】 <p><b>原橋西石棺</b></p> 原橋西の民家の西側生垣の下に横たわっています。6～7世紀に造られた石棺の底石と思われます。長側面に幅約10cmの溝、短側辺には浅い段がついています。この溝と段の上に側石をはめ込み側石を固定していました。以前は近くの溝の水を橋として利用していました。石棺を石橋として利用することは、ままありますが、何か妙な氣もします。 | 【19】 <p><b>構造改革特区加西南産業団地</b></p> 10区画41haにも及ぶ産業団地です。小泉首相が進める構造改革特区の2次分に平成15年5月19日に認定され、これまで用地売却しか認められなかった土地が、賃貸が出来るようになり、企業進出が相次いでいます。全国注目の経済特区です。  | 【29】 <p><b>おもっさん?</b></p> 南網引町公会堂のすこし北側の道路沿いにある小さな祠です。祠は石造りで、屋根は流れ造りのように前面が長く、千鳥破風があります。地元では「おもっさん」と呼ばれています。現在には信仰もありません。「おもっさん」については調べてみました。良く判りません。誰かご教示下さい。                             | 【39】 <p><b>大谷池</b></p> 両皇太神宮の裏山にある溜池です。徳川吉宗の享保の改革による新田開発のひとつで造られました。地元では菊若大明神と呼ばれるため荒涼たる原野でした。網引村の庄屋高田六郎右衛門政信が青野原南部の新田開発を請負い、それに先立ち、享保9年(1724)に大谷池を完成させ、この水を利用し、原野の開発と水田化を進めていきまし                   | 【49】 <p><b>菊若大明神</b></p> 集落の小さな一角にカシやヒノキの木々が生い茂り、うっそうとした雰囲気の中に小さな祠があります。地元では菊若大明神と呼ばれるため荒涼たる原野でした。網引村の庄屋高田六郎右衛門政信が青野原南部の新田開発を請負い、それに先立ち、享保9年(1724)に大谷池を完成させ、この水を利用して、原野の開発と水田化を進めていきまし    | 【59】 <p><b>見性寺</b></p> 田原駅で下車し北側の集落を見ると、大きなお寺の屋根とイチヨウの木が見えます。曹洞宗の寺院見性寺です。山門につづく石段には宝永4年(1707)の銘があり、珍しく8本のシロの木が並木のように植えてあります。本殿は昭和58年に改築された立派なもので、山門を入ってすぐの三体の石仏もかなり古そうで見逃せません。                               | 【69】 <p><b>田原町の竹林</b></p> 田原町は、昔万願寺川と下里川が合流するあたりに大きな竹林が広がっていたため竹原村と呼ばれていました。その後、竹林を切り拓き田畑としたため田原村と呼ばれるようになったとのことです。今日では当市有数の面積の水田が広がる田原町において、北の山裾に残る竹林が旧村の名残をわずかに留めています。                    |
| 【10】 <p><b>網引町の由来は？</b></p> 内陸部に位置するのに網引町という町名は不思議ではありませんか。網引町は万願寺川と下里川が合流する地点にあり、その昔、ちょうど網引駅南の水田あたりには大きな水の溜まり場があったらしく、人々が網を引いて魚を獲り暮らしていたため網引町と呼ばれるようになったとのことです。                       | 【20】 <p><b>せせらぎ緑地遊歩道</b></p> 加西南産業団地内に、人工的な小川に沿って遊歩道がつけられています。約500mの遊歩道の中に、あずま屋やベンチ、トンネルなどを配し、約55種の樹木や草花を植栽しています。それぞれの植物には名札が付けられています。そのため、名前を学習しながら散歩することが出来ます。また、セキレイなどの野鳥を観察することも出来るかもしれません。 | 【30】 <p><b>糠塚古墳</b></p> 村中の一角にこつ然として巨石が横たわっています。墳丘は採土され横穴式石室が露出しています。奥壁は破壊されていますが、玄室の側石と巨大な天井石が2石残存しています。巨石を使った古墳が多く残る当地を代表する古墳です。   | 【40】 <p><b>水谷之井戸跡</b></p> 田畑の中に井戸跡と石碑があります。その碑文には「此の井戸は上野地区にとっては貴重な生活用水として欠かすべないものであったが、昭和41年末小野市水道に加入し、その使命を終えたのでここに碑を立て後世に残す」とあります。高台にある当地にとって、井戸の水がいかに大切であったかを物語る石碑です。                           | 【50】 <p><b>清慶寺</b></p> 加西西国23番礼所の浄土宗のお寺です。延宝8年(1680)広誉という旅の僧が、南帝塚の由来を調べ、一寺を建立したことに始まると言われています。境内には、南帝塚をはじめ、板碑、石棺仏、宝篋印塔等文化財も豊富です。また、本堂屋根の大棟、降帳、隅棟などについての獅子口も見事です。                          |  |   |